

## 前橋市社会福祉審議会 第5回高齢者福祉専門分科会 議事録

◆ 日 時 令和8年6月23日（火） 午後1時30分～午後3時27分

◆ 場 所 前橋医療センター2階会議室

◆ <出席者> 15人（敬称略） ◎=分科会長 ※職務代理

委員：※佐 藤 由 美 （群馬大学大学院）  
柳 澤 和 良 （群馬弁護士会）  
五十嵐 洋 （群馬司法書士会）  
岩 井 丈 幸 （前橋市医師会）  
結 城 啓 之 （前橋市歯科医師会）  
野 原 ひろみ （群馬県看護協会）  
北 川 公 啓 （前橋市社会福祉協議会）  
久保田 光 明 （前橋市民生委員・児童委員連絡協議会）  
小 林 明 （群馬県老人福祉施設協議会 中毛ブロック）  
柳 川 右千夫 （群馬県老人保健施設協会）  
高 橋 慶 次 （群馬県在宅福祉サービス事業者協会）  
三 俣 和 哉 （群馬県地域密着型サービス連絡協議会）  
臨時委員：土 屋 昭 雄 （群馬医療福祉大学短期大学部）  
山 口 怜 生 （認知症の人と家族の会 群馬県支部）  
高 坂 秀 晴 （市民公募）

<欠席者> 2人

◎後 閑 千代壽 （前橋市老人クラブ連合会）  
高 橋 豊 （群馬県介護支援専門員協会 前橋支部）

<傍聴者> なし

◆ 議事内容

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 各種調査の分析結果について

- ・ 在宅介護実態調査【資料1】
- ・ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果【資料2】

(2) 第9期まえばしスマイルプランの分析・評価について

【資料3】【資料3追加資料】

(3) 施策目標と施策目標に向けた具体的な取組（事業体系）について

【資料4】【参考（前回資料）】

(4) 今後の分科会の開催予定について

4 そ の 他・質疑応答

5 閉 会

## 1 開 会

進行：長寿包括ケア課 大嶋課長

- ・ 新任委員 2 名の紹介

## 2 あいさつ

- ・ 佐藤職務代理より

## 3 議 事

※議事開始前

- ・ 傍聴者がいないことの報告

### 議題（1）在宅介護実態調査について

本議題について、委員から次のような意見があった。

- **土屋委員**

回答は要支援から要介護 2 までは大半を占めており、また、施設入所を検討していない割合が 74%となっている。介護度が重い方の回答が少ないことの影響か。

- **事務局**

在宅者を対象とした調査であるため、要支援から要介護 2 までの層が多くなる傾向がある。速報値ではあるが、回収数が増えてもこの傾向は大きく変わらないと考えられる。

- **山口委員**

認知症への対応や介護者の精神的支援が課題である。家族同士の支え合いの場や、働く方も参加可能なオンライン・夜間の交流の場が必要である。

- **事務局**

ケアラー支援の重要性は認識している。今後検討していく。

- **山口委員**

認知症の人と家族の会にて認知症の人とともにある家族の権利宣言をした。他自治体での予算化事例も踏まえ、本人に加えて家族支援も必要。仕事と介護の両立は引き続き大きな課題であり、介護離職の増加は重く受け止める必要がある。

- **佐藤委員**

調査結果は貴重なデータであり、政策検討に活用が必要。企業側の理解や支援も重要である。

- **岩井委員**

調査項目の全国統一性及び認知症関連項目の追加について確認したい。

- **事務局**

一部市独自項目はある。今後検討したい。

---

**議題（1）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果について**

本議題について、委員から次のような意見があった。

- **高橋慶次委員**

地域ごとの取組状況の差について説明を求める。

- **事務局**

地域特性に応じた支援が必要であり、社協と連携し、他地域の事例共有の場を設けている。

- **北川委員**

社協としても、地区単位・まち単位の仕組みづくりを支援している。まち単位の取組が進んでおり、情報交換の場を設けている。

- **柳川委員**

地区ごとのリスク偏在（芳賀地区の転倒・閉じこもり）について要因を確認したい。

- **事務局**

通いの場の不足や担い手養成の停滞が影響している可能性がある。

---

**議題（3）第9期まえばしスマイルプランの分析・評価について**

本議題での資料3（追加資料）での課題解決に向けて、委員から次のような意見があった。

**介護人材に関する意見**

- **三俣委員**

施設整備は順調に進んでおり、人材確保は大きな課題。未経験者向け研修が重要である。

- **山口委員**

退職者や介護経験者の活用、教育機関との連携が必要である。

- **高橋慶次委員**

県社協の地下にある福祉用具展示施設の活用可能性がある。

- **土屋委員**

養成校と市が連携した新たな取組が必要である。大学では志願者が減少し、留学生の割合が高まっている現状があり、介護の魅力をどう発信していくかが課題である。

### 地域の担い手に関する意見

- **北川委員**

社会福祉協議会では地域の担い手育成に取り組んでいる。学生・企業・NPO と連携し、行政や地域包括支援センターとも連携が重要である。

- **久保田委員**

地域ごとに担い手の状況が異なり、自治会、民生委員、サポーター間の連携が十分でないケースもある。自治会との連携を強化し、市として方向性を示すことが必要である。

- **佐藤委員**

学生の地域活動参加は双方に有益である。

- **高坂委員**

地域の連携不足を実感しており、調整役の必要性を感じている。また、身寄りのない高齢者への対応についても課題である。

- **事務局（補足）**

地域活動は存在するが把握・評価が不十分な可能性がある。

### 認知症施策に関する意見

- **山口委員**

認知症当事者の中には就労意欲を持つ方もいるが、受け皿が少ない。就労後の活動や余暇の場も含めた支援が必要である。

また、家族支援は評価が難しいものの、負担軽減の観点からケアラー支援の充実が求められる。

地域とのつながりが持てない家族も多く、オンラインや夜間の交流の場の整備が有効ではないか。

- **岩井委員**

認知症は進行を遅らせることが可能であり、運動や社会参加、食事、メンタル維持といった生活習慣が重要である。地域活動や認知症カフェなどの取組を着実に進めることが必要である。

- **野原委員**

医療機関と地域との連携が十分でなく、病院で関わった方を地域につなぐ仕組みの強化が必要である。

### その他の【資料3】についての意見

- **柳澤委員**

法人後見の取組が他市と比較して進んでいない印象がある。社会福祉協議会主体での

体制整備を進め、次期計画に位置づけるべきである。法人後見は、さまざまな波及効果が期待される。日常生活自立支援事業の負担軽減にもつながる可能性がある。人員や財源は必要だが、強力的に推進していく必要がある。

- **北川委員**

社協として法人後見の課題意識はあるが、進展していないのが現状である。養成後の市民後見人には、日常生活自立支援事業の支援員として活動いただいている。中期計画に拡充目標はあるが、法人後見の実施には踏み出せていない。

- **事務局**

法人後見の必要性は認識している、時間をかけて考えていかなければならない。

- **五十嵐委員**

高崎市の社会福祉協議会から法人後見の申立支援を依頼されたことがある。市長申立の場合は困難事例が多く、より体制の充実が求められているのではないかと。

- **結城委員**

独居高齢者の増加に伴い、支援につながらないケースや支援拒否の事例が増えている。個人情報問題もあり対応が難しいため、市の関与を期待する。

また、地域包括支援センターの24時間対応について、周知が十分であるか確認したい。

- **事務局**

相談体制はあるが、利用状況の把握や周知に課題がある。

---

### **議題（3）施策目標と施策目標に向けた具体的な取組（事業体系）について**

- **岩井委員**

認知症予防の観点からも、地域での交流や社会参加は非常に重要である。人との関わりや活動機会が、心身の健康維持につながる。

- **久保田委員**

支援拒否事例の増加を踏まえ、自治会との連携を進めており、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を広げる必要がある。

---

### **議題（4）今後の分科会の開催予定について**

→次回8月25日（火）13：30～ 前橋市議会庁舎2階にて開催予定

11月・2月開催予定の分科会については、日程が決まり次第連絡。

#### 4 その他・質疑応答

→特になし

---

#### 5 閉 会

(吉野福祉部長)

第10期スマイルプラン策定にあたっては、社会状況の変化、とりわけ人口構造の変化を踏まえた対応が必要である。

介護人材の確保、地域の担い手、認知症施策などの課題に加え、介護離職の増加についても強い危機感を持っている。

多様な主体がつながり、支え合いながら、住み慣れた地域で安心して暮らせる社会を目指し、委員の皆様や関係機関とともに議論を重ね、計画の検討を進めていく。

以上